

朔日

10/3

議会改革をたどって

taouie@asahi.com

北海道栗山町が2006年につくった議会基本条例が議会改革の扉を開いた、と前回書いたばかりだが、予兆は1990年代後半から2000年代初めに始まっていた。舞台は宮城、三重、鳥取、高知などの県議会。いずれも「改革派」と呼ばれた知事がいる県ばかりだった。

「このままでは議会の存在意義がなくなる。会派を問わず、議員は危機感を共有していました」。三重県議6期目で議長も経験した三谷哲央(71)は、95年4月に知事に就任した北川正恭(73)の2期8年をそう振り返る。

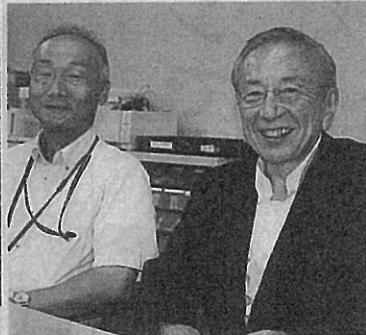
実際、衆院議員から知事に転じ、次々と改革の矢を放つ北川の勢いはめざましかつた。前知事時代のカラ出張でつくった裏金12億円を返還させ、「官官接待」は全廃。費用対効果に基づく事務事業評価システムを導入し、不要と判断した事業は廃止、補助金も見直した。

1期生だった三谷もそのままスピーード感に目を見張った。「県民はみんな知事の方を向いていた。自己改革しなけれ

「このままでは見捨てられる」



知事退任後はマニフェストを提唱し、各地の地方議会改革を後押ししている北川正恭=東京都港区



片山善博／東京都新宿区

三重県議会改革の一翼を担つた
三谷哲央(右)と条例づくりの法

ば、議会は県民から見捨てられるムードがあつた」

川に東京で会つた。一利益誘導に明け暮れていた議会が変

「方分権の時代であります」と宣言し、県議たちにこう呼び

ば、議会は県民から見捨てられるムードがあつた」

川に東京で会つた。一利益誘導に明け暮れていた議会が変

「方分権の時代であります」と宣言し、県議たちにこう呼び

に東京で会った。一利益説に明け暮れていた議会が変った背景には、危機感もあつたけど、地方分権への高揚感があつたと思いますよ」

知事就任の95年、地方分権進法が国会で成立。国から方に権限や財源を移す地方権が進めば、これまで以上に自治体の力量と責任が問われる。議会もそれを感じ、自改革に動いたと北川はいう。

「当時を思い返すと、地方分権が今にも実現しそうな高揚感がたしかにあつた。それを奮意識していたのが、改革知事たちだったろう。

99年に鳥取県知事になつた山善博(67)は県議会での討あいさつで、「21世紀は地

方分権の時代であります」と宣言し、県議たちにこう呼びかけている。

提出する議案がおかしければたまらず修正していくべきだ。議員提案で条例を制定することを望みます。それが議会本来の姿です。県政に県民の思いとのずれが生じれば、執行部はもとより議会の責任である――。

まるで挑発だが、総務大臣を経て、早大教授をしていふ片山は違うと言う。「挑発というよりエールを送ったんです。この際、一緒に変わりますよう、と」。00年には地方分権一括法が施行。議会改革は、そんな時代の必然だったのかもしない。――敬啟略（神田誠司）

(神田訪問)

議会改革をたどって

tadotte@asahi.com

分厚い予算書や決算書をめくるうち、頭が真っ白になつた。経常収支比率、標準財政規模、基準財政需要額……。聞いたこともない財政用語が次々と出てきて、何が書いてあるのか、さっぱりわからないう。これで議員をやっていくの。

神奈川県葉山町の町議会議員、横山すみ子(76)は1985年に初当選した時、不安に襲われた。レクチャーを頼むと、収入役が懇切に教えてくれて、最後にこう言われた。「議員さんはあれやつて、こ

れやつてと言つけど、財政もわからずに提案する議員活動は駄目です」ひとりでコツコツ勉強を続けたが、やはり仲間がほしいと思い始めた頃、起きたのが「夕張ショック」。2006年6月、北海道夕張市が約290億円の赤字を隠していた。ごみ処理にかかる1トンあたりの費用は県内ワースト1位。高額な下水道施設整備費の返済負担が深刻なこともわかった。

1年かけて報告書にまとめ、住民らに配った。教育・子育て施策の充実、ごみ処理基本計画の策定などを求める5項目の政策を町長に提言し

ことから始めた。すると町の課題が見えてきた。児童・生徒数が増えているので全体の教育費が減つていった。ごみ処理にかかる1トンあたりの費用は県内ワースト1位。高額な下水道施設整備費の返済負担が深刻なこともわかった。

これが発覚し、翌年には国に運営を管理される財政再建団体に転落したのだ。自治体だって破綻するんだ。いつしょに勉強しよう。声をかけて少しずつ輪を広げ、13年に有志6人で「ZAIKEN」

「AIKEN」という財政研究会を立ち上げた。まずは手分けして、自治体の決算状況が

わかる「決算カード」の数値をグラフ化し、大きな変化のある年の原因を追跡していく

ことから始めた。

現在活動は休止しているが、それが財政チェックを続けている。

メンバーカーの一人、副議長の待寺真司(54)は変化を口にする。「質問しても、財政的な裏付けがあるから執行部が口先だけの『検討します』で逃げられなくなつた」



●「ZAIKEN」メンバー。左から待寺真司、横山すみ子、金崎ひさ=神奈川県葉山町
●財政分析について説明する大和田一紘=東京都日野市

議員や市民を対象に財政分析講座を開いているNPO法人「多摩住民自治研究所」理事の大和田一紘(75)は「夕張市の巨額赤字が発覚した12年前の夏、私は夕張で取材にあたっていた。市議会議員に『どうしてチェックできない』と質問をぶつけられた」という。夕張市は公的機関に、財政を学ぶ

議員や議会は画期的に増えた」と言う。議会や議員有志に招かれ、大和田が訪ねた自治体は全国で300を超す。ほとんどが夕張市の破綻以降の依頼だ。大和田によると、夕張市が

議会改革、チェック機能と言つたところで、財政がわからなければ始まらない。夕張市は以後、各地に財政通の議員は着実に増えている。そう信じたい。||敬称略(神田誠司)

夕張ショックで目覚めた



議会改革をたどって

4

radotte@asahi.com

議会改革に関心を持つ住民は多くない。しょせん運営を改善する内部の話だと思つて

若松市議会の議長、目黒章三郎(66)だ。

9月中旬、会津若松を訪ね

ると、目黒は言った。「改革

をくむ仕掛け。質疑を「一問

一答」にするのも議論の質を

高めるための工夫だ。民意を

くみ、議論の質を高めるのは

いい。だが、その先が大事な

のではないか。

そんなことを考へている

時、東京で開かれたシンポジ

ウムで「議会改革の目的は制

度づくりではありません」と

話を男に会った。福島県会津

市議会報告会は民意の目的はあくまで市民福祉の向上です。だから10年前から、市民の声をもとに政策を練り上げる『政策サイクル』を回しています

政策サイクル?

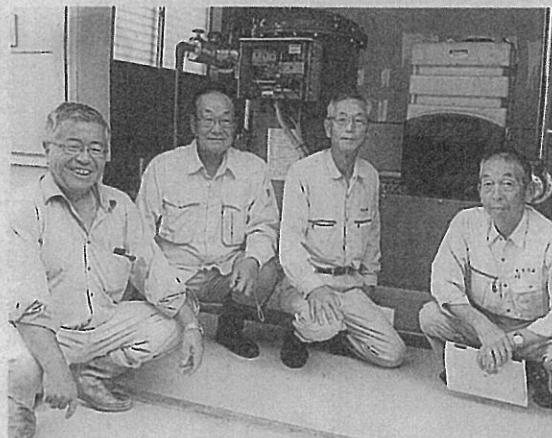
聞くと、

い。

「政策サイクル」を回す



住民と話す目黒章三郎



市議会の決議も後押しして完成した取水ポンプ施設の前で喜ぶ小桧山昭一(左)ら湊地区の住民=いずれも会津若松市

き課題を設定し、委員会に振り分ける。

委員会は先進地視察や有識者の意見を聞いて調査・研究

を進め、質疑や決議などを通じて市に政策提言する。さら

に提言が予算などにいかされ

ているかチェックし、市民に報告する流れだ。

土台になっているのは、な

に優先し、どんな提言をま

とめるのか、それぞれの段階

で行う議員同士の徹底した議論だ。だが、最初からいでの

議論が全くなかつた。「学

級会だつて生徒同士がやりと

りするのに、議会がこれでい

てはなかつた。

1995年、議員になつた

目黒は驚いた。議員は執行部

に質問するだけで、議員同士

が議論し、政策をつくる場に変

わる。きっかけは、07年10月

に議会が招いた北海学園大学

教授(当時)、神原勝(75)の

講演だった。

議員はただ質問するだけ。

そんな議会は駄目です。議員

同士が政策を議論して議会と

しての意見をまとめ、執行部

に対抗しないと行政監視、政

策立案案という本来の機能は発

揮できません」。

「まさに目からウロコ。あ

れから『チーム議会』にカジ

ね、政策をつくって成果を出

す。改革の「第2ステージ」

が始まっている。』

そこそこ考へている

時に、市内15地区で開く市民との意見交換会などといふ。毎回、寄せられる200を超す市民の意見を分類・整理し、議会として取り組むべ

いのか、つて。素朴な疑問でした』

そんな議会が、議員同士が意見交換会で声を上げる

地区で解消させると約束。す

べに9割以上の集落で配水が

始まっている。「議決が後押

してくれたおかげです」。

湊区区長会会長の小桧山昭一

(66)の言葉に、議会への信頼

を感じた。

「まさに目からウロコ。あ

れから『チーム議会』で議論を重

ね、政策をつくって成果を出

す。改革の「第2ステージ」

が始まっている。』

議会改革をたどって

tadotte@asahi.com

名古屋市から電車で25分ほど。愛知県犬山市の市議会は、市民が議場で発言できる「市民フリースピーチ制度」を今年から始めた。

第1回の2月に続き、6月、9月に開催。これまでに計20人が5分の持ち時間で意見を述べた。宮田尚人(53)もその一人だ。自分が見えない宮田が6月に訴えたのは、災害時の避難行動要支援者名簿に障害者が載るには、家族以外で2人の支援者が必要という、市が設けた条件の見直しだった。

その条件が足かせになつて登録を申請しない仲間も多いために市の窓口で何度も受けあつても門前払い。それならびに、フリースピーチに応募したのだ。

宮田のスピーチを受けて市議会は7月、20人の議員の総意で改善を市長に申し入れた。すると市は「支援者1人でも登録可能」に方針転換した。宮田は「小さな声を拾いつつあってくれる制度があつてよかったです」と話す。

制度を発案したのは昨年5月に議長に就任したピアンキ

・アンソニー(60)。生糸のニューヨーカーだが、禅や武道の国にあこがれて29歳で初来日。1996年からは犬山で市立中学の英語講師になり、日本国籍を取得。2008年に初当選した。

議会でも議場で市民が発言するの普通です」。20人の市民からは観光施策への提言や

長崎県の五島列島北部にある人口約2500人の小値賀島で、議長の立石隆教(67)が、カナダに留学経験がある議会事務局職員から「カナダの地方議会では傍聴者が自由に発言できる」と聞いたことだ。

「議会は傍聴に行つてもつまらない」「傍聴していると、じれつくなつて自分の意見を言いたくなる」。そんな声を聞くたび、どうしたらいいのかを考えあぐねてきた

立石は、職員の話にひざを打つ思いだった。

立石は、職員の話にひざを打つ思いだった。

議場は住民にとってどんな場所だろう。傍聴席はあっても、意見も言えず、ただ見ているだけ。よそよそしい空間を住民に開く。そんな取り組みが広がればいい。

ビアンキにとつて、市民が高齢者の防犯対策などさまざま意見が出た。「議員が気見を言う権利があるのは当然のことだ。「アメリカの制度を定着させ、政策に生かしていきたい」

立石と違い、小値賀では議員の一般質問が終わるたびに傍聴者に「質問や意見がある方はいますか?」と聞くやり方をとっている。今年3月、町

内に観光地のトイレ整備について質問した池田良子(58)は、「言いたいことが言えて、議

会が身近になつたのはたしかです」。

議場は住民にとってどんな場所だろう。傍聴席はあっても、意見も言えず、ただ見て

いるだけ。よそよそしい空間を住民に開く。そんな取り組みが広がればいい。



上 議場で「住民に聞くんです」とポーズをとるピアンキ・アンソニー=愛知県犬山市
下 町議長の立石隆教と議場で質問した池田良子。背景に海が広がる=長崎県小値賀町

いいのかを考えあぐねてきた立石は、職員の話にひざを打つ思いだった。

立石は、職員の話にひざを打つ思いだった。

立石は、職員の話にひざを打つ思いだった。

立石は、職員の話にひざを打つ思いだった。

立石は、職員の話にひざを打つ思いだった。

立石は、職員の話にひざを打つ思いだった。

立石は、職員の話にひざを打つ思いだった。

立石は、職員の話にひざを打つ思いだった。

立石は、職員の話にひざを打つ思いだった。

立石は、職員の話にひざを打つ思いだった。

議会改革をたどって

tadotte@asahi.com

議会報告会や議場での市民リースピーチ制度などを通じて住民の多様な意見をくみ取り、それを政策に練り上げて成果を出している議会を紹介してきた。連載の折り返しを過ぎた今回は、そんな頑張っている議会のなかでもユニークな成果をあげた岐阜県可児市議会を取り上げたい。

地元の高校で本番さながらの模擬投票をバックアップし、18歳選挙権が初めて導入された2016年参議院選挙で、高校生の投票率アップにひと役買つたのだ。

有権者育てた模擬投票



8月に市議会主催で行われた高校生との地域課題懇談会のテーマはまちづくり。中央が川上文浩=岐阜県可児市



「可児が好き。だから将来は戻りたい」と話す田口裕斗=京都市

立可児高校で取り組まれている「地域課題解決型キャリア教育」だった。地域を担う人材を育てる第一歩は、魅力的で多様な大人が地域にいると知つてもらうことだ。高校生と大人が出会い、一緒に考える場をつくりたい。議会が間に入れば商工会议所や医師会だって協力してくれる。川上の提案は高校のめざす方向性と合致。14年夏、議会主催という世にも珍しい、高校生との地域課題懇談へき地でもなく、人口は約10万2千人。しかし、いざこも同じ15歳から64歳までの「生産年齢人口」は減る一方。特に若者の流出が課題なのだという。

い。13年に議長になり、議会も何かできないかと考えた川上が着目したのが、地元の県議会が始めた「18歳選挙権導入」だった。15年12月の懇談会のテーマは「地域課題解決型キャリア教育」だった。マは「どうしたら選挙に行くのか」。会が終わった後、生徒会長の田口裕斗(20)がこう言った。「模擬選挙をやってみたい」川上が応じた。「本気の大學生が関わって、本気の模擬投票をやるぞ」。市長選を想定して、候補者役の生徒3人がテーマにマニフェストをつくり、議員はその政策づくりを手伝った。立会演説会を開いた際に多くの若者が地域に残つてほしいので。それに、いい地域をつくるために、いい有権者を育てるのも議会の仕事だと思っています」

(神田誠司)
=敬称略

時間と近いが、多くの若者は高校卒業と同時に進学や就職でまちを離れ、戻つてこな

い。13年に議長になり、議会も何かできないかと考えた川上が着目したのが、地元の県

立可児高校で取り組まれている「地域課題解決型キャリア教育」だった。

マは「どうしたら選挙に行くのか」。会が終わった後、生徒会長の田口裕斗(20)がこう

い。13年に議長になり、議会も何かできないかと考えた川上が着目したのが、地元の県

立可児高校で取り組まれている「地域課題解決型キャリア教育」だった。

い。13年に議長になり、議会も何かできないかと考えた川上が着目したのが、地元の県

議会改革をたどって

tadotte@asahi.com

議会改革をめざす議員からよく聞く言葉に「TTTP」がある。意味は「徹底的にばくある」。TPP(環太平洋経済連携協定)に引っかけた語呂合わせだ。

こんな風に使われる。「T

TPで改革を進めよう!」。

イコール、よその議会のいい

ひとじりをして改革を進めよう! TTTPは、そんな言葉なのだ。

北海道にTTTPを実践して

議会改革度全国ナンバー1にな

った議会がある。帯広市の

西に隣接する、人口約1万9

千人の芽室町だ。

市街地を一歩出ると、肥沃な畑が広がる農業の町。そんな町で議会改革のアクセラを踏んだのは、2011年5月に議長に就任した広瀬重雄

22から段階的に16まで減らしていった。このままじゃ駄目だ。そんな広瀬の危機感に共鳴したのが、議会事務局長になつたばかりの西科純(55)。2人は青年会議所時代から十数年来の

(60)だった。背景には議会不要論の高まりがあった。平成の合併を議論していた15年ほど前、広瀬

の条文との比較にアレンジした。「政策形成サイクル」をつくる時は、長野県飯田市と福島県会津若松市の二つの議会のいいひとじりをして組み合わせている。

TTTPはこれだけことじまらない。議会報告と町民と意見交換をする「議会フオーラム」、議会だよりを読んだり、議会を傍聴したりして、住民が議会に物申す「議会モニター制度」、有識者にアド

バイスをもひい「議会サポー

タード制度」……。

情報公開から住民参加、政

策立案まで多岐にわたる芽室

の改革は、その総合力が評価され、早稲田大学マニフェスト研究所の全国議会改革度ランキングで、14年度から4年連続1位に選ばれた。

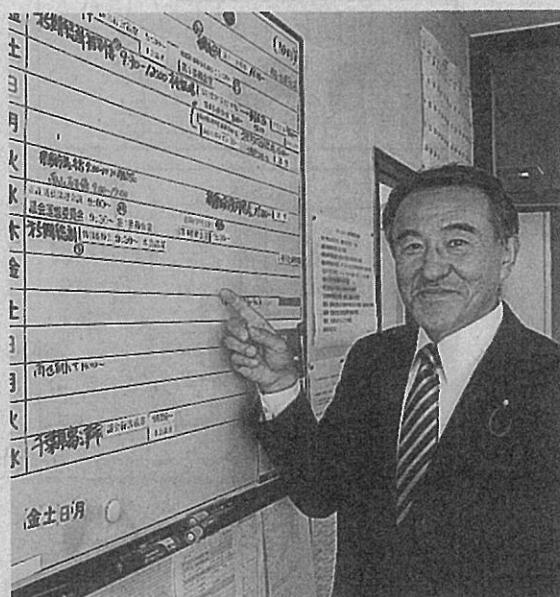
長く地方議会の取材にかかってきたが、5、6年前から私は思うようになつた。改革のノウハウは出尽くした。

あとはやるか、やらないかだけだ。と、今回、広瀬から印

象的な言葉を聞いた。「視察の皆さん、TTTPで議会を変えませんか?」

〔敬称略〕

「TTTP」徹して全国1位



上 視察の予定が書き込まれたホワイトボードの前に立つ広瀬重雄は今も議長をしている
下 西科純は異動で現在は公立病院に勤めている。議会事務局長だった時、広報を充実させるため議会だよりを毎月発行に変えた。いずれも北海道芽室町

（神田誠司）

議会改革をたどって

tadotte@asahi.com

8

議会が改革を進めようとする時、強い味方になるのが議会事務局だ。

この連載でも北海道栗山町の中尾修(69)、芽室町の西科純(55)という議会事務局長に登場していただいた。先進的な議会には必ず、志をともにする事務局職員がいる。

大津市議会局次長の清水克士(55)もそんな職員の一人だ。しかし9年前、企業誘致担当から異動ってきて感じたのは落胆だった。主な仕事は議員の「お世話係」。自分の判断でコトを進める職場では

なかつたからだ。

転機は2年目に訪れる。政務活動費の不適正と思われる支出があつた会派に、疑義を申し立てたが聞いてくれない。議長に相談し、議会運営委員会で「皆さんの意見を求めていきたい」と発言させてもらつた。清水は議会運営委員会で「お世話係」をめざすと応援してくれる議員もできた。清水は

事務局職員は「軍師」たれ!



現在は政策立案をサポートする体制が整った
議会局で談笑する清水克士(左)=大津市



「職員と議員はレガッタのチームを組むなど良好な関係です」と話す竹内照夫=大津市

昨年4月、関東の5万人規模の市の議会事務局長に就任した職員は、女性の事務局員が一日中、議員の「お世話係」をめざすネットワークづくりが全国のあちこちで始まっている。

飲み物を出し、昼食の出前を注文し、その皿を洗う。コーヒーに砂糖を入れるかどうかにも気を使う。議会事務局以外ではとっくにそんなことはやめている。早速、議長にかけ合って改善したが、「こ

活路を見つけた気がした。議員に言われたことをやるだけじゃなく、市民のため、議会のためにこんなことをしたら

ひつですかと自分から発意する職員になろう! まずは議会の政策立案をサポートする体制づくりに取り

組んだ。法規に詳しい人材配置を提案すると、政策法制係ができた。専門的知見を得るために大学と連携を始めた。結果、議員提案条例が次々と成立し、予算案や条例案の修正が増えた。

改革が軌道に乗ると、任期4年間で議会が取り組むこと

をあらかじめ決める「ミッシ

ヨンロードマップ」策定を持

ちかけ、2015年から始動させた。清水に議会運営委員

会での発言を認めた当時の議

長、竹内照夫(62)は言う。

「おかげで間違いなく改革は

加速した。彼を批判する議員

の声もあつたが、改革が進む

につれ聞かなくなりました」

ちなみに大津市では、15年

に議会事務局の名称を議会局

に変更した。「事務」を除い

たのは、受け身なお世話係の

イメージを払拭したかったか

らだが、文字通り、実際の世

話に明け暮れる事務局は今も

存在する。

清水の話に戻る。滋賀県市

議会議長会は2年前、13市

事務局で「軍師ネットワー

ク」をつくった。中心に清水

がいる。合言葉は「職員は議

会の軍師たれ!」だ。

お世話係から軍師へ――。

うれしいことに、脱「お世話

係」をめざすネットワークづ

くりが全国のあちこちで始ま

議会改革をたどって

tadotte@asahi.com

この連載では議会改革に真摯に向き合う議員たちを紹介している。だが「議員なんて」と思う住民も多い。

マイナスイメージの源をたどると、一つに「政治と力」をめぐる議員の不祥事がある。あの「号泣会見」がそうだった。

「城崎、佐用など日帰り1回野々村氏目的示さず

300万円業務活動費で支出

2014年6月30日、兵庫県議の丸尾牧(54)は地元紙の1面に躍る見出しを見て驚

き、そして悔いた。本当にチェックすべき相手は目の前にいたのに、自分は気づかなかつたんだ!

記事に出てくる野々村竜太郎とは無所属控室で机を並べ、議会会期中は毎日のようにな顔をあわせていた。丸尾は行政監視グループ「市民オンブズニ崎」世話人の肩書も持っている。

時47歳で1期目の野々村はノーマークだった。翌日、号泣する野々村の映像がテレビで流れると、議会事務局には抗議の電話が殺到。その後、3年間に切手代として約250万円を支出した。議会解散を求める市民運動に加わり、出直し市議選に立候補して当選した。

07年に県議に転じてからも同僚議員の政務活動費などをチェックしていた。でも、主な実態解明もないまま、議長は辞職を勧告した。ほかの議員に飛び火させないように募引きを急ぐつもりだな——。丸尾は早速動く。



「あのころは、『』が改革の正念場だと思つていました」と話す丸尾牧=神戸市中央区

コード	品名	単価	金額
4902770222683	ゲートスター4-43	400	400
4902770155606	JETSTREAM 総合	400	400
4901991060256	PLAY COLOR K スイートカラ-6色	600	600
4902770022153	ゲートスター1総合+2替え芯 赤 0.7	80	400
5		80	400
4902770022160	ゲートスター1総合+2替え芯 黒 0.7	80	800
10		80	800
以外税対象額			2,600
消費税(8%)			208
合計			¥2,808
18点			

丸尾がチェックした支出報告書に添付された領収書のコピー。黄色いラインマークがチェック済みの印だ

その2日後、以前から調べていた政務活動費のデータ公表に踏み切った。

16年7月、詐欺罪などに問われた野々村に対し懲役3年執行猶予4年の有罪判決が確定した。号泣会見に臨む直前の控室での野々村の様子が丸尾は忘れられない。

立ったまま小声で記者会見の応答の練習をし、「落ち着いて、冷静」と自分に言い聞かせる言葉が時折聞こえてきた。「孤独な姿でした。でも皮肉なことに、彼のおかげで改革が始まったと言えるかもしれません」

事件を機に、兵庫県議会は、使い切りの意識を生む前払いをやめ、使った分は会派から後払いする方式に変えた。領収書の添付を徹底した

た。政務活動費の不正使用が後を絶たない。「改革」のとばらネットで公開し、誰でも閲覧できるようにした。調査のための第二機関を設けた。

解決策はどれも単純です。りたいのですか? —敬称略

(神田誠司)

議会改革 をたどりて

tadotte@asahi.com

10

この連載の最終回のテーマは、議員のなり手不足だ。3年前の統一地方選挙では、定数に占める無投票当選者の割合が町村で21・8%、市でも3・6%にのぼった。

なぜ、なり手が少ないのか。理由によくあがるのが、人口減少や小さな自治体の議員報酬の少なさだが、「最大の要因は議会の魅力の無さだ」と言う男がいる。

長野市の市街地から車で約30分。一面にリンゴ畑が広がる長野県飯綱町の人口は約1万1千人。男は、この町で議

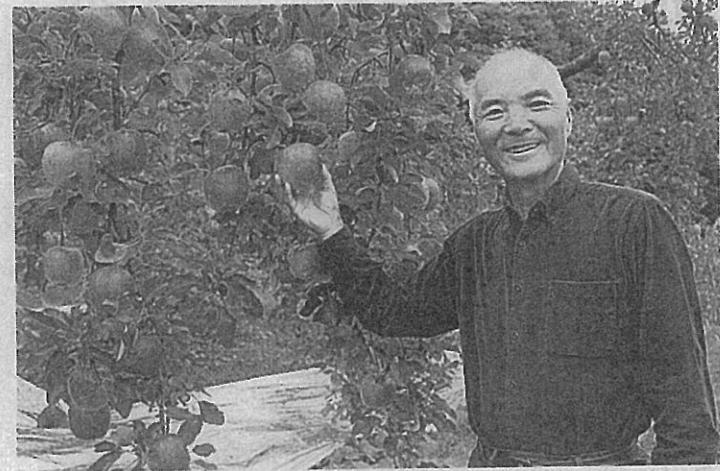
会改革の先頭に立ってきた前議長の寺島涉(69)。発言の趣旨を聞くと、「議会が変われば、なり手不足は解消します」と言って、寺島はこんな話を始めた。

12年前、町内のスキー場を運営する第三セクターが破綻し、町は4億3600万円を抱えこむ。町民説明会では、チエック機能を果たさない議会や町への要望を寄せてもうつた。

この二つの改革が予想外の効果をあげた。

昨年10月の町議会議員選挙で当選した15人のうち、5人

2008年から様々な改革



①育てた真っ赤なリンゴを手にする寺島涉。議員をやめても政策塾や地域活動で忙しい日々を送る

②結婚で14年前、飯綱町に住むようになった滝野良枝。3人の子どももがいて、フリーランスのマナー講師もしている=いすれも長野県飯綱町



③育てた真っ赤なリンゴを手にする寺島涉。議員をやめても政策塾や地域活動で忙しい日々を送る

④結婚で14年前、飯綱町に住むようになった滝野良枝。3人の子どももがいて、フリーランスのマナー講師もしている=いすれも長野県飯綱町

に取り組んだ。寺島が議長になつた翌年の10年には、「政策サポート制度」が始まつくるサポートーになつても

議会活動への町民参加を広げ、町民の知恵を借りて政策をつくる狙いだが、14年に「議会広報モニター」を8人

から57人に増やしたのも同じ

発想だ。議会だよりを毎号読

んで、その感想だけでなく、議会や町への要望を寄せてもらつた。

この二つの改革が予想外の効果をあげた。

昨年10月の町議会議員選挙で当選した15人のうち、5人

がサポーターやモニターの経験者だ。3回募集したサポー

ターエ経験者は計43人、モニタ

ーは延べ177人。「二つの

制度が、議員のなり手を育む

手段が役割を果たしていま

す」と寺島は言う。

「実は、参加した2、3人が

次の町議選に出でもいい

と言っているんですよ」。満

面の笑みだった。

連載では先駆的に改革に取

り組む議会を紹介してきた。

だが、話を聞いてみると、い

ずれも最初からそうではな

かった。住民の厳しい視線を意

識して改革へと踏み出したの

だ。あなたのまちの議会はど

うだろう。背中を押すのは、

私たち住民だ。

◇次は「大和とヤマトをた

どつて」です。

(神田誠司)
II 敬称略